

# 知事記者会見の概要

日 時：令和元年6月4日(火) 10:00～10:19

場 所：記者会見室

出席者：知事、総務部長、秘書課長、広報広聴推進課長

出席記者：14名、テレビカメラ5台

## 1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

## 2 質疑応答の項目

### 発表事項

- (1) さくらんぼ大玉新品種「山形C12号」の名称について

### 代表質問

- (1) 県議会6月定例会に向けた心構えについて

### フリー質問

- (1) 発表事項に関連して
- (2) 参議院議員選挙への対応について

<幹事社：河北・共同・TUY>

## ☆報告事項

### 知事

皆さん、おはようございます。早速ですけれども、イベントや祭りをご紹介いたします。

6月8日に、上山城周辺で「やまがたワインバル 2019 in かみのやま温泉」が開催されます。近県も含め、過去最多となる36社のワイナリーが出店する東北最大規模のワインイベントです。ワインに合う料理が並ぶフードコートやステージイベントなど、1日を通して楽しむことができます。また、9日ですけれども、上山市と南陽市のワイナリーやぶどう畑を巡るツアーが行われます。

そして、6月の山形といえばやはり「さくらんぼ」の季節です。「さくらんぼ」にちなんだイベントが、県内各地で行われます。

毎年多くの来場者で賑わう「さくらんぼの種飛ばし大会」ですけれども、6月9日には東根市民体育館駐車場特設会場で「さくらんぼ種飛ばしワールドグランプリ 2019」が、そして6月16日には道の駅寒河江チェリーランドイベント広場で「第34回全国さくらんぼの種吹きとばし大会」が開催されます。

そして6月22日・23日ですが、若者を主体に山形から元気を発信するイベントとして、山形県郷土館「文翔館」と山形市七日町大通りを会場に「第8回日本一さくらんぼ祭り」が開催されます。

22日のオープニングセレモニーには、本県とインドネシア共和国パプア州が姉妹県州の盟約を締結して今年で25周年を迎えることから、駐日インドネシア共和国特命全権大使アリフィン・タスリフ閣下ご夫妻をお招きしております。ご夫妻には会場で「流しさくらんぼ」にご参加いただくなど、山形の旬を体験していただきたいと考えております。

さて、祭りの内容ですけれども、毎年好評をいただいている「日本一巨大な流しさくらんぼ」や「さくらんぼ種飛ばしニコニコ相性コンテスト」、それから「山形のさくらんぼ すこだま振る舞い」のほか、ダンスショーやステージイベントなどが行われます。また、今年初めての試みとして、初日の文翔館前ステージを午後7時まで延長し、ジャズバンドなどの演奏を聴きながら県産ワインなどが楽しめるイベントを企画しております。

さらに、22日には「ふるさと芸能のつどい」が開催され、県内各地の12の団体の特色ある民俗芸能が披露されます。

県民の皆様も、ぜひ、お出かけいただければと思います。

私から発表が1点だけございます。さくらんぼの大玉新品種「山形C12号」の名称について発表いたします。

「山形C12号」の名称は、これです（補足：パネルを掲げる）。「やまがた紅王（べにおう）」です。

この名称が、不正に使用されることのないよう、商標登録の手続きを進めてまいりました。本日、特許庁から商標出願が公開されましたので、お知らせをするものであります。

「やまがた紅王」の果実は、つやがある鮮やかな紅色で、500円玉よりも大きい3Lから4Lが中心の大玉となり、さくらんぼの“王様”の風格があります。「紅王」という名称は、この特徴を端的に表しているものであります。

また「紅王」という名称は、応募件数が最も多く、生産者や消費者を問わず、県内外の多くの方々からも親しまれ、愛され、覚えやすい名称であると思います。応募していただきました皆様、この場をお借りして感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

そして「紅王」の上です、ね、「やまがた」を冠することで、国内外に「さくらんぼ県 山形」をアピールすることができると考えております。

「やまがた紅王」につきましては、本県のさくらんぼの将来を担う期待の大型新人として、国内外の消費者の心をつかむ品種に育てて欲しいと考えているところです。

私からは以上であります。

#### ☆代表質問

##### 記者

河北新報の岩田と申します。よろしく申し上げます。議会なのですけれど、県議選を経て県議の顔ぶれも変わってですね、6月の定例議会で県政課題をめぐって論戦に新たな風が吹き込むことと思っておりますけれども、行政と議会は車の両輪ということで、議会に臨む知事の心構えを、改めてお伺いできればと思っております。

##### 知事

はい。来週の13日から、県議会6月定例会が始まります。執行部と県議会というのは、県政にありまして、車の両輪と言われております。目指すところは、山形県民の幸せ、山形県勢の発展、これでありまして、これは県政ももちろんそうでありまして、県議会もそうであると思っております。ですので、6月定例会に限ったことではございませんけれども、県議会、すなわち、このたび県民の皆さんから負託を受けて当選された43人の県議会議員の皆さまと、山形県民の幸せのため、山形県勢発展のために、しっかりと議論をしてみたいと考えているところです。

#### ☆フリー質問

##### 記者

NHKの新藤です。よろしく申し上げます。

「やまがた紅王」の件なのですが、こちら、海外に輸出ということもですね、念頭に置いて開発された品種なのですけれども、これに関してはこれからどういう形で、海外に発信していきたいと考えているのでしょうか。

知事

海外発信ですか。そうですね。海外の前に国内、県内外があるかと思っておりますけれども、やはり、国内外の消費者の心を掴む品種に育ててほしいというふうに思っております。やはり、大玉であるということ。ツヤが、光沢があってですね、大変美味しいということが大変大きな魅力だというふうに思っています。

やはり、日本人でありまして外国人でありまして、おいしいものを食べたいという気持ちは変わらないのかなというふうに思いますので、しっかりと、この「やまがた紅王」をですね、生産者の皆さんの高い技術力でしっかりと生産をしていただいて、国内そして海外にもしっかりと流通するようになりたいというふうに思っています。

特別、海外だけにとということではなくて、まず最初は国内でも足りないくらいではないかと。今からも「まだですか、まだですか」という声をお聞きします。県外からいらっしゃるお客様にですね「あの大きなさくらんぼいつ出るんですか」とよく質問されますので、大変期待をされているのかなと思っております。

まだ、3年もかかると聞いておりますので、しっかりと生産をして流通するように、そして、全国ひいては海外にとということで、しっかりと着実に「やまがた紅王」がですね、世界の品種として育つように取り組んでいきたいというふうに思います。

記者

毎日新聞、石塚と申します。今回の「やまがた紅王」という名前は、投票でも一番多かったということなのですのでけれども、知事ご自身の率直な、名前についてのご感想をお伺いできればと思いますが。

知事

そうですね。シンプルにして、その風格と言いますか、さくらんぼの王様というのがびったりフィットするなというふうに思ったところでもあります。シンプルにして明快な、本当にわかりやすい、誰が聞いてもわかりやすい名称ではないかなというふうに思ったところ です。

応募の中にはですね「レッドキング」というようなものもあったのです。まさにだから、「紅王」というのが、外国の方には「レッドキング」でいくのかなと思います。

本当にわかりやすい。そして山形を冠しているということですね。「やまがた紅王」本当にさくらんぼの王様の風格を表す良い名称だなというふうに思っているところです。

記者

日本経済新聞の浅山です。この名前なのですが、青森県がですね、「ジュノハート」という大玉の品種を近く出されると。品種間競争を知事としては、山形県なので横綱というお考えなのか、それとも他県との競争の中でやっていきたいのか、そのあたりと、あと向こ

うはカタカナ、こちらはひらがな漢字と、これは何かやはり意識されたのか、今まで「佐藤錦」とかですね、「紅秀峰」とか、山形県の場合は全部漢字系で来ていますけど、何かそのあたりは意識された面があるのか。

知事

そうですね、特にそのカタカナとか漢字とか、特にこだわったわけではありませんけれども、ただ、「紅シリーズ」ということで、山形県が開発したさくらんぼがね、もう5種類ほどあると聞いています。

ですから「紅」をつけるというのも非常に自然なことだと思っておりましたところ、やはり応募も多いですし、応募してくださる方は大体消費者の皆さんですから、消費者の皆さんが「いいね」と思って考えていただいたということはね、お買いになる時もすぐわかっただけかといいますか、漢字だから良くないということも特には思いませんが、山形を冠するならやっぱり漢字のほうが、ちょうど語呂がいいのかなというふうには思いますね。

ただ、青森県の「ジュノハート」が、新聞で拝見した時には大変びっくりをしまして、ほかの県も本当にさくらんぼのことでがんばっておられるのだなということで、ちょっと私としても、これは絶対山形県は負けていられないという気持ちはあります。長野県や、山梨県もがんばっておられますし、関西のほうに行きますと、長野県のさくらんぼがちょうど店先に並んだりしておりますけど、本当に「山形県、負けていられないわ」と私は思いますね。

やっぱり「さくらんぼ県」であります。手話でも、これで「山形」なんですね（補足：手話で「山形」を表現。さくらんぼの形を表す。）。だからもう手話の世界でも「山形」はもう「さくらんぼ」なんです。これで「山形」なんです。

というようなことで、本当に山形といえばさくらんぼ、さくらんぼといえば山形でありますので、やっぱりしっかりとさくらんぼの王様の風格を備えた「やまがた紅王」をですね、しっかりと生産して、おいしいさくらんぼを山形県から全国の皆さん、海外の皆さんにお届けしたいというふうに思います。

記者

産経新聞の柏崎と申します。

ようやく名称が決まっておめでとうございます。

知事

ありがとうございます。

記者

それで、先ほどもお話した、5品目でよろしいのですか。山形県が開発したさくらんぼとしては、5品目と今おっしゃられたのですが。

知事

5品目はすでにあっただかなということ。

記者

「紅」がつくのが5品目目。

知事

紅シリーズということで、5つぐらいあると聞いております。

記者

わかりました。実際にこの名前がつきまして、消費者が口にできるというのは、食べられるのはいつ頃になりますでしょうか。

知事

それはね、本当に、昨年苗木を供給いたしまして、今でもですね、苗木を欲しいという方が、生産者の方がたくさんおられますので、今年も供給するのかなと思いますけれども、市場に出回るのは、「紅王」が出回るのはいつ頃でしょうか。

農林水産部次長

はい。知事が申しあげましたように、苗木の販売は去年と今年、去年が1万6,700本ほど、今年が2,800本ほどございまして、それを農家で育成いたしまして、先行販売ができるのが令和4年、2022年、本格販売に至りますのが令和5年、2023年ということをご予定してございます。

記者

はい、ありがとうございます。

知事

はい。楽しみにお待ちしております。

記者

何度もこの場で聞いておりますけれども、選挙、参議院選挙までですね、公示まで1か月というようなタイミングになっていると思うのですが、改めて知事のこの選挙に対

する対応について教えていただけますでしょうか。

知事

対応ですか。そうですね、参議院選挙というのは県内一円が選挙区でございますので、選ばれた方はですね、県民の全員の、たくさんの県民の思いを中央にしっかりと届け、また県の発展のためにも尽力していただかないといけないというふうに思っています。

そういう方を選ぶ選挙ですので、しっかりと、どのようなお考えを持っておられる方が候補者なのかということで、県民の皆さんにはご判断をいただきたいというふうに思っております。

私はですね、本当にいろいろなことがありまして、ずっと「まだ考えています」と言っ  
てまいりましたし、それは今でも変わりません。しっかりと公務に、本当に来週から県議  
会も始まりますので、それにしっかりと注力をしたいというふうに思っています。